

術前骨格筋量と腫瘍浸潤リンパ球との関連

准教授・宮本 裕士

大学院生命科学研究部 臨床系 消化器外科

▶ 研究内容

【背景・目的】

大腸がんは3番目に多いがん種であり、高い頻度で再発し、適切な治療が可能なバイオマーカーが必要である。また、骨格筋量の不足により、様々ながんにおいて患者の予後の悪さと相関すると言われている。本研究では、大腸がん患者の骨格筋量 (skeletal muscle index) と免疫細胞との関係性について調査し、そのメカニズムについて解明することを目的とする。

【研究概要】

研究データについて

- SMIを踏まえたグルーピング
- SMIにもとづいたKaplan–Meier curves
- SMIと腫瘍内リンパ球の関連性
- SMIとCD3、CD8におけるKaplan–Meier curves

手術後生存率において、CD3、CD8と骨格筋量に相関がみられた

骨格筋量と腫瘍浸潤リンパ球の関係について

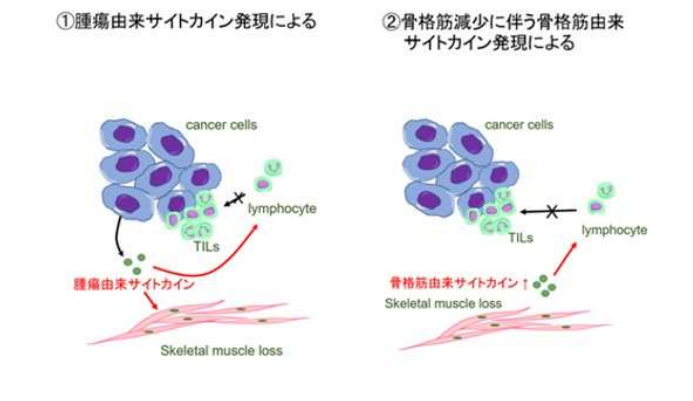


図4. メカニズム概要例

▶ アピールポイント

- 骨格筋量から予後予測や治療予測を可能とする新たなバイオマーカーとなる。
- 画像や臨床献体、Inbodyによる各種データの蓄積があり、それらを用いて新たな指標を開発する。

▶ 参考資料

• Daitoku N, Miyamoto Y et al., Ann Gastroenterol Surg. 2022 Mar 25;6(5):658-666.

▶ キーワード

大腸がん 骨格筋 リンパ球 CD3 CD8 予後予測 バイオマーカー colorectal cancer skeletal muscle lymphocyte prognostication biomarker 医歯薬学領域 外科系臨床医学 消化器外科学

《ご連絡先》 コーディネータ 木戸 拓実 TEL 096-342-3209 FAX:096-342-3209 mail:t-kido@jimu.kumamoto-u.ac.jp